

科目名	環境都市概論	科目コード	51180
-----	--------	-------	-------

学科名・学年	環境都市工学科・1年
担当教員	荒木 信夫, 井林 康, 岩波 基, 衛藤 俊彦, 尾上 篤夫, 佐藤 和秀, 塩野 計司, 田中 一浩, 村上 祐貴, 宮腰 和弘 (環境都市工学科)
区分・単位数	履修単位科目・必履修 1単位
開講時期・時間数	前期, 30時間【内訳: 講義 20, 演習 10, 実験 0, その他 0】
教科書	なし
補助教材	自作配布物
参考書	なし

【A. 科目の概要と関連性】

環境都市工学が「どのような目的を持って、どのようなことをしているのか」を、環境都市工学を形作っている個々の技術の目的と実際(どのような「もの・こと」を、どのようにしているのか; どのようにしようとしているのか)を学習することによって理解します。

また、図面によるコミュニケーションは技術者にとって欠くことのできない能力の一つですので、「図面の書き方(製図)」についての基礎的な事गरらを学び、身に付けます。

この授業は、環境都市工学の技術者になることを目指す人への入門科目です。

【B. 到達目標と学習・教育目標との対応】

この科目は長岡高専の学習・教育目標の(D)と主体的に関わる。

この科目の到達目標と、各到達目標と長岡高専の学習・教育目標との関連を以下の表に示す。

到達目標	評価の重み	学習・教育目標との関連
環境都市工学の目的と実際を理解する。	65%	d1
製図の基礎を身に付ける。	35%	d1

【C. 履修上の注意】

第1回から第10回までの授業では、それぞれ別な先生が、それぞれ別な分野のことを紹介します。各回の授業の内容がそれぞれに、どのように関連し合うのかを、また、各回の授業の内容が、環境都市工学の全体の中で、どのように位置づけられるのかを考えながら学習してください。

【D. 評価方法】

次に示す項目・割合で達成目標に対する理解の程度を評価する。50点以上を合格とします。

定期試験(35%)【内訳: 前期中間 0, 前期末 35, 後期中間 0, 後期末 0】

その他の試験(0%)

レポート(0%)

その他(65%)

【E. 授業計画・内容】

前期

回	内容	備考
1	全体の導入, 災害と災害対策に関する概論	(塩野)
2	持続型社会や低炭素社会に関する概論	(荒木)
3	橋梁などの構造と地震動に関する概論	(井林)
4	設計と工事に関する概論	(岩波)
5	水理学に関する概論	(衛藤)
6	地盤と構造物基礎に関する概論	(尾上)
7	氷河期に生きる人間に関する概論	(佐藤)
8	水道と環境問題に関する概論	(田中)
9	都市の環境と歴史に関する概論	(宮腰)
10	コンクリートとコンクリート構造物に関する概論	(新任)
11	製図の基礎(1)	(塩野)
12	製図の基礎(2)	(塩野)
13	製図の基礎(3)	(塩野)
14	制すの基礎(4)	(塩野)
-	期末試験(「製図の基礎」に関する問題)	50分
15	試験解説, 発展授業(製図の基礎(5))	(塩野)